

東京マックス美容専門学校

自己評価

(平成30年度)

評価項目の達成及び取組状況

基準1 教育理念・目的・育成人材等

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
理念・目的・育成人材像は定められているか	4
学校の特色は何か	4
学校の将来構想を抱いているか	4

・本校は「優れた技術を持ち・環境にやさしく・人に優しい美容師の誕生を目指します。」を教育理念として学校教育を運営してきている。

・多様になってきた美容業界の各分野において卒業生が対応できるように、メイクやネイル、まつ毛エクステ、パーソナルカラーなどの資格取得にも力を入れ卒業生が活躍できる力を養っていく。

・今後のさらなる生活環境の多様化に伴い、老若男女を問わず「美しくありたい、心豊かに生きたい」と言う方々に応えられるために、ヘアのみならず、メイクやネイルなど幅広い美容分野で活躍できる人材を育成していく。

基準2 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
運営方針はまとめられているか	4
事業計画は定められているか	4
運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4
人事や賃金での処遇に関する制度は確立されているか	4
意思決定システムは確立されているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

・学校の運営方針は定められており、各種規定は状況により検討を行い決定されている。

・各授業科目については、各授業を担当する教員と毎年度、設定・講義内容について検討・検証し作成を行い、理事により承認されることで正式決定される。

・理事会・評議員会は当法人の規定により定められ、定期的に会議を開催し有機的に連携し機能している。

・情報を集中化しペーパーレスにすることにより、省資源化の一方で業務連絡の一本化効率化を目指している。

基準3 教育活動

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
各学科の教育目標、育成人材等は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3
修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4
カリキュラムは体系的に編成されているか	4
学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3
キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	3
育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制はあるか	4

・教育目標を教員全員が理解し、意識統一がされている。まず美容師国家試験の合格を前提として、卒業後全員が就職することを目指す。そのため、学生一人ひとりの評価を基準に個々がレベルアップするための支援を行っている。

・過去の実績と、現状そして業界での現状を考慮に入れ、各技術・知識の習得に必要な科目・時間の計画を立てている。

・現在、校外での実習活動としてサロンでのインターンシップを実施しているが、これを職業実践専門課程が取得できるまでに充実を図る。

・GPA 評価等で明確な評価を出し、個々の評価を行っている。

・国家資格に限らず、美容業界で活躍の幅を広げるためメイクやネイル、エステなどの検定取得のための講習を実施している。

基準4 学修成果

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
就職率（卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか	3
資格取得率の向上が図られているか	4
退学者の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

・就職は本校の教育目標の1つであり、就職のためのマナー講座や就職活動の指導、就職ガイダンスや個別指導など就職率向上のための活動を実施している。

・国家資格の合格を目標として、授業の計画を立て実施している。実技・学科の成績を評価し、不足している学生については特別授業を組むなど底上げの工夫を行っている。

・退学者については、定期的に個別面談や、場合により3者面談を実施するなど学習意欲の向上、維持、メンタルケアなどを行っている。しかしながら近年、学費について当校も入学金補助などのサポートを実施しているが、各家庭の経済事情による学費の未納、退学などがみられる。

・卒業生の動向については、来校しての情報提供や業界紙などによる情報、などから業界での活躍がつかえられている。

基準5 学生支援

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
就職に関する体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3

・クラス担任と教務と連携し就職活動の支援を行っている。就職、そしてその後の目標を意識させ学校生活から自己を見つめなおさせている。また、就職ガイダンスをはじめ学生と就職先サロンとのミスマッチを防ぐため、サロン情報が学生に的確に伝わるよう工夫を図っている。

・まず、クラス担任が接する機会が多いことから、相談の窓口となっている。個々の問題により教務やカウンセラー資格保持者が適時対応に当たり問題の解決に努めている。

・個別に奨学金などは用意していないが、入学者全員に補助が行き渡るように援助をしている。2020年度には一人暮らしのためのサポートや交通費などの援助もすることが決まっている。

・1年に1回定期検診を実施しており、異常が確認された学生においては個別に対応、再検査など促している。また、インフルエンザ流行時など全員マスクを着用させるなど健康管理に気を配っている。

・希望者には提携の学生寮を紹介している。また、2020年度からは一人暮らしの学生への補助金サポートの実施も決まっている。

・保護者とは学生の出席状況等緊密に連絡を取り、状況により3者面談を行い学生の意識向上などサポートしている。

・卒業生は再就職先の紹介などサポートを行っている。

基準6 教育環境

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要に十分対応できるよう整備されているか	3
学外学習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災に対する体制は整備されているか	3

- ・学校の施設・整備は十全とは言えないが、設置基準は十分満たしている。施設の老朽化もあるが、学生が落ち着いて学校生活が送れるよう補修、メンテナンスを行っている。
- ・校外での実習活動としてサロンでのインターンシップを実施しているが、これを職業実践専門課程が取得できるまでに充実を図る。インターンシップに行ったサロンからは、各学生の評価をしてもらい、学生にフィードバックし自己を再評価就職への意識付けに活かしている。
- ・防災は防災マニュアルをもとに、年1～2回避難訓練を実施している。また、非常時にそなえ全学生が3日程度学校で避難できるように、食料の備蓄も行っている。

基準7 学生の募集と受け入れ

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
学生募集は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

- ・学生募集は専属の担当者を置き、募集広告などは誇大な表現を避けている。公開している情報は真実を明瞭に公表し、希望者が誤解を受けないように配慮しながら行っている。
- ・オープンキャンパス、学校説明会を定期的実施している。オープンキャンパスでは在校生に協力してもらい学生生活を参加者に伝えるなど、学生の生の声が届くようにしている。
- ・入学選考は適正かつ公平に行われている。
- ・学納金は妥当なものとなっており、適切に扱われている。

基準8 財務

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
------	----

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制準備はできているか	4

・税理士事務所から指導を受けながら改善に努めており、当学園並びに本校の財務状況は安定している。

・理事会および評議員会とは別途に定例会を開催し、月次においての収支を確認しつつバランスシートの健全性を確認している。この定例会には理事2名、監事1名、評議員1名及び事務局長が参加し、運営状況に疑義がある場合には会計士からアドバイスを仰ぐこともある。

基準9 法令等の遵守

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2
自己点検・自己評価結果を公開しているか	1

・法令、設置基準は遵守され、適正な運営がなされている。

・個人情報の扱いに関する基準に基づき運用されている。学校が保持する個人情報は目的以外には一切使用しない。

・自己点検としては一部の職員だけが理解しているが、各問題点などは職員会議で問題定義され共有するようにしている。しかし、教員により問題の重要度が異なるため、この点も共通の認識ができるよう認識の一致が必要と考える。

・専門課程の職業実践専門課程の認定を目指し、自己評価結果を公表できる環境を整える。

基準10 社会貢献

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

・本校は環境問題について関心を持っており美容学校としては全国で初めてISO14001を取得した。廃棄物や省資源はもとより、学生への環境教育も実施し環境問題への関心を習

慣付けるようにしている。

・ボランティアは年4回程度老人ホームへの慰問など実施しているが、学生は積極的に参加してくれており、教育理念の「優れた技術を持ち・環境にやさしく・人に優しい美容師の誕生を目指します。」に合致し学生指導が良い方向に向かっている。

学校関係者評価報告書

東京マックス美容専門学校 学校関係者評価委員会

2019年3月18日(月) 13時00分～14時00分

評価委員

ヴァスコダガマ法律事務所	大川原紀之
クレアトゥール内野	内野 邦彦
ClubCut IDE	井出 俊治
税理士法人東京合同	山田 和江

学内関係者

学校長	長谷川 隆
教務課	杉谷 聡雄
〃	蓼沼佳代子
事務局	村岡 克朗
学科講師	乙川 博士
〃	藤原 博士

●教育方針について

課内授業の充足に併行し、特別ゼミ、研修制度、2年次からのコース特化を行い、国家試験を全員突破させながら、外部の美容師志願者の受講者拡大を図っている。

●学園運営

教育環境の改善化の一環として、LINE技術を駆使した学務連絡通知体制の設立、教職員情報シェアの促進化(最新鋭IT対応)と、経理出納のファームバンク環境整備を推進していることが業務効率化に結び付けられていると見受けられる。

●教育現場での動向

2年次進級時のコース別選択制度において、毎年トレンドの予測を見据えた技術の見直しを行い、時代の変化に対応したカリキュラムの編成を行い、一定の効果が認められる。

●校外での実習活動

実際美容室への派遣（インターンシップ及び体験入店）を行い、店舗営主にサロンでの実習における評価をしてもらう。これにより、学生自身が技術を習得する意欲を持たせられていると認められる。

●学業成果の評価

美容業界の定着率を伸ばすことが今後の課題となっており、どのような要因で継続・離職しているかの要件定義をデータ化してゆく準備を進めることが望ましい。

●設備・施設

一部の箇所では老朽化が見受けられるため、継続的に設備投資計画を構築してゆくことが望ましい。

●その他

家庭の経済的事情により学納金の納付期限について延滞する学生が一定数見受けられるため、何らかの支援策を提案してゆくことが求められる。

以上